

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	40 外国語学研究科	責任者	須田義治		
基準5	学生の受け入れ	総合自己評価	B		
★基準5の総合自己評価の理由を簡潔に解説してください。					
<<回答>> 本研究科全体では、2023年度入試は、入学定員充足率と収容定員充足率が前期課程、後期課程ともに50%を下回っている。しかし、収容定員充足率に関しては、2019年度から2022年度のあいだで、前期課程は69%、57%、43%、37%と推移し、後期課程は96%、88%、75%、71%と推移しており、前期課程はここ数年50%を割っているが、後期課程は減少傾向にありながら、高い水準を維持している。また、専攻別では、2023年度の収容定員充足率も、前期課程では、中国言語文化専攻が50%、日本言語文化専攻が90%となっており、後期課程では、英語学専攻が50%を超えており、日本言語文化専攻は100%となっている。以上のことから、総合事項評価としてはBとした。					
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。				
★<学生の受け入れ方針> (記入してください。)	以下のようにアドミッション・ポリシーを定め、ホームページや大学院入学試験要項で公表している。 外国語学研究科博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。			変更	有() 無(✓)
	1. (1) 言語学・言語教育学・言語文化に関する十分な基礎学力を有し、各専攻分野を専門的に学び、研究したいと考えている。 (2) 言語運用能力を高め、他言語・文化につき広く知り、言語と文化に対する感性を磨きたいと考えている。				
	2. (1) 広い知識と深い理論を修め、多様な見解に対応し、自身の見解を主張できる。				
	3. (1) 国内外の専門家と研究活動の交流を通じ、各専攻分野の研究に意義を見出す意欲がある。 (2) 高い向上心を持ち、将来、研究者・教員・高度職業人などとして国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。				
	外国語学研究科博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。				
	1. (1) 前期課程で学んだ言語学・教育学・文化に関する確かな学力を持ち、それらをより深く専門的に研究したいと考えている。				
	2. (1) 広い知識と深い理論を修め、多様な見解に対応し、自身の独自で発展性のある見解を主張できる。				
	3. (1) 真理に対する探究心と、本質を見抜く審美眼を有し、将来、研究者・教員・高度職業人などとして国際社会、地域社会に貢献したいと考えている。 (2) 各専攻分野の言語運用能力を極め、異文化圏の一層の理解を深め、共時的のみならず通時的な言語と文化に対する感性を磨きたいと考えている。 (3) 国内外の専門家と研究活動の交流を通じ、各専攻分野の研究に意義を見出したいと考えている。				
評価の視点1※	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。				A

【基礎要件●】	根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15	
評価の視点 2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針	A
評価の視点 3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針	A
点検・評価項目 (2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	
評価の視点 1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	A
評価の視点 2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報	A
評価の視点 3※	専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11*入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿	A
評価の視点 4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	A
評価の視点 5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応） 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程 *専攻の状況（根拠資料等）を総合的に判断して自己評価してください。	A
点検・評価項目 (3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点 1※ 【基礎要件●】	各専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表 2、表 3、基礎要件確認シート 16	C
評価の視点 2※ 【基礎要件●】	各専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表 2、表 3、基礎要件確認シート 16	C
評価の視点 3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	B
★項目 (3) 5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む） 根拠資料を用いて回答してください。		
≪回答≫ 学部学生を対象にした各種の国際シンポジウム、学術シンポジウムおよびワークショップを開催し大学院の PR を行っており、特に「東西文化の融合」のシンポジウムは外部にも公開している。また大学院説明会や大学ポートレートにより学内外の PR をおこなっている。 また、中国言語文化専攻と日本語文化専攻では海外指定校による推薦入試を実施している。		≪資料名≫ 40-C5-1：2022 年度第 2 回研究科委員会 議事録（報告 6） （開催日：2022 年 5 月 16 日） 2022 年度第 6 回研究科委員会 議事録（報告 10）（開催日：2022 年 11 月 14 日） 2023 年度大学院入試要項
点検・評価項目 (4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点 1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023 年度自己点検・評価について	A
評価の視点 2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	A

★項目(4) 5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
<<回答>> なし	<<資料名>> 40-C5-2：なし

II 現状を踏まえ、研究科全体の長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった専攻の新たな問題点や課題について、研究科としてどう捉えるか今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	
--------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画 (アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表するとともに、専攻ごとに入試委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備されており、これらに点における学生の受け入れ体制は適性であり、それをもとに公正な入学者選抜を実施していることは評価できる。</p> <p>本研究科全体として入学定員充足率が前期課程で改善課題の対象となることから、総合自己評価は「B」としている。定員未充足への対応として、シンポジウムやワークショップの開催による大学院PRを行なっているとのことだが、これについては昨年度に続いて取り組まれている内容であるため、受験生獲得にむけた方策としての開催の実情とその効果の検証などを踏まえて取り組まれることを期待する。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学位授与方針、教育課程の編成方針と関連した入学者受け入れ方針を専攻・課程ごとに設定しHP等で公表している点は根拠資料から確認できる。入学者選抜の制度化に関しては、専攻・課程ごとに入試委員を選任し、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」に基づく制度と体制により公正な入学者選抜を実施していると判断できる。これらにより入学者選抜の制度や運営は適切かつ公正に実施していると評価できる。</p> <p>貴研究科の前期課程における2023年度志願者数は17、入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.41、収容定員に対する在籍学生数比率は0.47と適正範囲内で管理されている。博士課程における志願者数は2、入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.33、収容定員に対する在籍学生数比率は0.46となっている。</p> <p>収容定員に対する在籍学生数が未充足であることの当該部局としての改善策として、学部学生を対象にした各種の国際シンポジウム、学術シンポジウムおよびワークショップを開催するなどPRを積極的に行っていることは評価するが、今後それらについて効果の分析及び検証を行い、これまで以外の方策の見直しや追加も含め必要な改善・向上が望まれる。</p>

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。